

島津製作所の知財DX：生成AIによる年間1億円コスト削減の裏側

ベテランの知見をAIプロンプトに凝縮する「プロンプトドリブン改革」により、知的財産業務を根本から変革。

AIが変えた知財業務の主要領域



他社特許調査 (FTO) の9割を自動化



AI導入前: 100% AI導入後: 10%
AIが特許抵触リスクを自動判定し、研究者の検証作業を大幅に削減。

海外特許庁への応答準備が数ヶ月から数分へ



数ヶ月 → 約2分

拒絶理由通知の分析と補正案作成をAIが約2分で完了します。

発明提案の分析と先行技術調査が約15分で完了



数ヶ月

約15分

従来は数ヶ月要した発明の本質特定と調査をAIが代行します。

導入による驚異的な成果



年間1億円以上の
コスト削減を達成

¥1億円+

主に翻訳や調査の外部委託費を内製化することにより圧縮しました。



成果物の品質が
人間を上回るレベルに



AIの品質 現地代理人
AI作成のレポートは、現地代理人以上の分析と評価されています。

業務プロセスの劇的な短縮

業務プロセス	従来の時間	AI導入後の時間
 外国特許の 拒絶理由対応	🕒 数ヶ月	約2分 ✓
 発明提案の 先行技術調査	🕒 数ヶ月	約15分 ✓
 研究者の FTO調査負担	🕒 100%	約10% (90%削減) ✓